

# 第 49 回いそご文化資源発掘隊

## NTT のケーブル名は歴史の生き証人 洋光台編

2020 年 11 月 13 日開催

「矢部野」。これは洋光台地区の昔の町名だ。現在の町はこの矢部野町のほか、栗木町・田中町・峰町・日野町・笹下町の一部を取り込んでできました。その町名がケーブル名に残っているのです。

「弁才」。これは昔の字名ですが、その由来自体は不明。もしかしたら、どこかに弁財天があったのかもしれない…。

### 【当日歩いたコース】

洋光台駅前～弁財橋～金山神社～歴史的な一直線の道～薬王寺～洋光台西公園～墓地～こども宇宙科学館～洋光台駅前  
歩く距離は約 2.8 キロ。あまり坂がない道です。



第 49 回いそご文化資源発掘隊  
**NTT のケーブル名は歴史の生き証人**  
電柱をめぐる小さな旅 洋光台編

**11月13日 (金)**  
13:00～15:00

講師：吉澤幸治さん  
洋光台の歴史に詳しい「町あるきの達人」

普段には気づいていない電柱。その上部にケーブル名を示す小さなプレートが貼られています。なかには「なに、これ？」と思うような名前もありますが、これらはすべて地域の歴史を物語るのです。  
そんな電柱を巡る小さな旅を企画しました。第 2 回日は洋光台駅周辺です。秋のひととき、ケーブル名の謎解きに出かけてみませんか。ついでに閑静な街を散歩することもできます。

集合場所：洋光台駅前（解散も同じ）  
集合時間：13時 解散：15時予定  
定員：20名（先着順）  
参加費：300円（資料代・保険料）  
申し込み：11月3日（火）まで  
お名前、年齢、性別、住所、電話番号を FAX・写メ・郵送または持参で杉田劇場までお送りください。

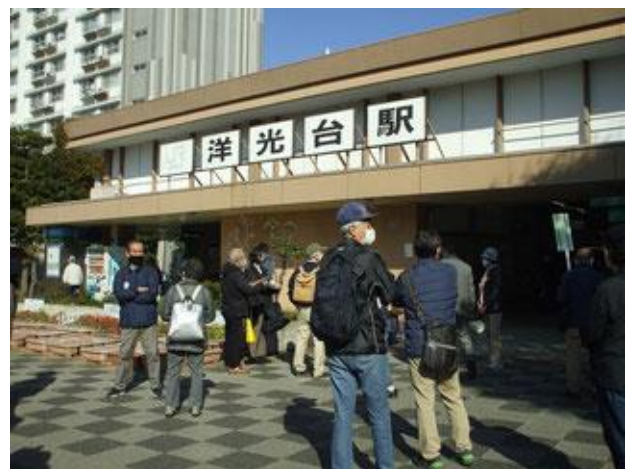
メールアドレス：  
〒235-0033  
磯子区杉田1-1-1  
らびすた新杉田4階  
磯子区民文化センター杉田劇場  
TEL. 771-1212  
FAX 770-5656  
Mail sugieki@yf.or.jp

たまには上を向いて歩こう♪

NTT のケーブルには、それぞれ線路を示す名称がつけられているのが分かります。洋光台では柄沢、弁才などという昔っぽい名前が。あるいはBとかGといった謎のケーブル名もあります。そんなプレートを見ながら洋光台の歴史散策を楽しんでみました。



現地で見ただけではこれらの名称は何を意味するのでしょうか。各種資料を基に調べてみました。



この日の集合場所はJR洋光台駅前。雨の心配もなく、ごきげんな快晴でした。募集人数は 20 名。そこに 27 名の応募がありました。

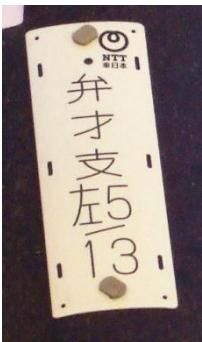
できるだけ多くの方々に参加してほしいだったので、キャンセル、辞退者を除いて総勢 24 名のまち歩きとなりました。

集合時間は 13 時だったのですが、みなさん待ちきれなかったのでしょうか、時間前に全員が集まりました。



駅前でスタッフが参加者全員を検温し、手指の消毒をしてもらい、注意事項や今回の説明を聞いたあと、2班に別れて出発。

新型コロナの感染拡大が続いているため、参加者は密集することなく最初の電柱を目指して行きます。本来ならば縦長の隊列にはしたくなかったのですが、現在の状況を考えれば仕方ありません。



最初に見たのは「弁才支」と名付けられたケーブル名。

「支」は支線を表していますが、弁才本線というのはありません。

さて、この「弁才」とは何なのでしょう。現在の洋光台地区でこの名を見るのは、ケーブル名の他に根岸線をまたぐ橋だけのようです。

昔の『土地宝典』や昭和46年の住宅地図を見ると、字名として「弁才」が表示されていることが分かります。字名をケーブル名に使用するのはよくあることなのですが、この字名そのものは、どういうゆらいがあるのでしょうか。もしかしたらこの辺りに弁財天があったのかも知れませんね。



ケーブル名の下に書かれているアルファベットと数字は電柱の管理番号です。たいていは1番から始まり、その次が2番、さらに3、4、5……と続いています。

しかし、ケーブルは途中で右や左の道路に入ったりもしています。たとえば3番の電柱のところで、そのまま進む

ケーブルもあれば、ここで右の道路に伸びているものもあります。そういうときはノの上にもR1を加えています。

この写真の例でいくと、1番電柱のところから右に入って9番目の電柱、さらに右に入って4番目の電柱、さらにそこから左に入って4番目の電柱、さらに右に入って1番目の電柱という意味です。



このあと確認したのは来光寺、矢部野といった昔の施設名や地名を引き継いでいるものたち。

来光寺というのは現在は薬王寺に統合されており、建物だけが薬王寺の敷地内に建っています。

さらに進んでいくと、こんなのが現れました。なんと2段になっています。おそらく2つのケーブルが1本の電柱に共存しているのでしょう。





上段は「第一矢部野支線」です。矢部野というのは洋光台の昔の地名ですから、エリア的にはかなり広いのでしょう。

だから第1矢部野と第2矢部野と2系統に分かれているようです。

下段の「左右手」は「そうで」と読みます。笹下川近くの字名で、支流は左右手川と呼ばれています。

左右手という字名の由来となる川だったのかもしれませんがね。



金山神社で小休止。と同時にこの神社の解説をしていただきました。

先行している第1班はこの日の講師である吉澤さん。第2班は杉田劇場調査員の小沢さんです。神社の由来については……

創立年代は不詳ですが、昔から矢部野町の鎮守、金山比古神社として崇敬されてきました。明治45年、栗木町の日枝神社に合祀され、上笹下神社と改められましたが、昭和22年、旧社地に再び社殿を奉建して、社名を矢部野神社と決めました。昭和32年に至り社名をもとに戻して金山神社としました。

鎌倉時代、この地域は武器を製造するための製鉄を行っていたという場所であることから、「金山」という名称ができたと言われています。



この地図は昭和44年の矢部野町です。新しい町・洋光台を開発している最中ですので、古い町と計画している街路とが、重ねて表示されています。

しかも、等高線も入っているので、このエリアの変貌がよく分かる地図なのです。

黄色く塗った道が、当時の主要道でした。

右端に鳥居の記号が描かれています。これが金山神社で、現在と同じ場所にあります。

左端に赤い四角で囲ったところには観音堂とかかかっていますが、これが現在の薬王寺です。

黄色い道は金山神社と観音堂を結んでいました。というよりも道路に接続して両者が建っていたとも言えます。

この地図から新しい計画道路は、この古い主要道をなぞるような形で造られたことが分かります。



この道路が地図上に示した黄色い道路の現在の姿。奥が金山神社方面だ。



その道の中程にこのようなお地蔵さんがある。民地に引っ込められて立っている。



昔の旧道の真ん中にあったから村中地蔵と呼ばれていた。



明治の初めに、廃寺となっていた来迎寺と金山寺を合わせて「来光寺」が建立されました。その後、洋光台の開発で来光寺が取り壊

され、昭和46年にもとの来迎寺があった場所に来光寺を再建。

現在はこの場所に薬王寺があり、門を入れて右側に来光寺の御堂があります。

ケーブル名に残っている「来光寺」はこのことなのです。



洋光台5丁目にある共同墓地。ここには新しい町の開発のため移転させられてきた昔からの地蔵や祠が集められています。

おしゃもじさま、伊勢山の太神宮、亀扇の句碑など……。

洋光台というとあまり歴史の無いエリアだと思われがちですが、こうして昔からのものがあちこちに残っているのです。【了】